

— 福島をつなぐアート／ミュージアム —

裂ける日常、断たれる記憶

2011年3月11日の地震と津波に引き続いて起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故は、人びとの物心両面に大きな影響を及ぼし続けています。美術史学会では一昨年「震災とミュージアム—そのとき私たちは何ができるのか」と題するシンポジウムを仙台市で開催し、震災した文化財や関係施設のレスキュー活動と復興支援事業をめぐって議論しました。震災から四年を経る今回のシンポジウムでは、かたちのあるものの救済活動に加えて、あるとき突如として裂けてしまった日常や断たれてしまった記憶といった「かたちのないもの」の回復に対するアートやミュージアムのかかわりようを「福島」という現場で議論します。

福島で今もお解決をみないさまざまな問題は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を直接的な原因のひとつであることは事実でしょう。しかし、たとえば生来のコミュニティから離れることを余儀なくされた人びとのなかで継承されてきた慣習や、蓄積されてきた記憶は、実は地震や津波、そして原発の事故よりも前にすでに喪失へと向かっていたのかもしれない。芸術表現の初発の動機づけは、人びとの日常や記憶、心の状態と不可分であるのは言うまでもありません。また、美術作品をはじめとする有形の文化財を保存活用する場であるミュージアムには、無形の情報を蓄積して体系化することも期待されています。さらに、可視化し物質化することが難しく、存在じたい忘れられてしまうおそれのある諸々に対して、アートはどのように向きあい行動しようとしているのか。いま、私たちは美術史にかかずらう者として、「震災と復興」という問題域を超える、この根本的かつ普遍的問題にあらためて目をむけ、我がこととして共有し、意識的な議論を始めなければなりません。

2015年3月29日 日

10:30→16:00

福島県立美術館 講堂

参加無料 事前申込不要
定員240名 [当日先着順]

福島県福島市森合西養山1 電話 024-531-5511

- 10:45→12:00 第1部 報告「福島から」
伊藤 匡 [福島県立美術館]
川延安直 [福島県立博物館]
平野明彦 [いわき市立美術館]
司会=後小路雅弘 [九州大学]
- 13:00→14:30 第2部 クロストーク「福島へ」
藤井 光 [映画監督・美術家]
小沢 剛 [美術家]
蔵屋美香 [東京国立近代美術館]
モデレーター=川延安直
- 14:45→16:00 全体討議
伊藤匡+川延安直+平野昭彦
+藤井光+小沢剛+蔵屋美香
司会=小勝禮子 [栃木県立美術館]

主催=美術史学会+福島県立美術館

後援=全国美術館会議+文化資源学会+日本アートマネジメント学会